

救命医 鹿野 晃 (Akira Kano)

医療法人社団 晃悠会 むさしの病院 理事長/院長
ふじみの救急病院 名誉院長



PROFILE

1973年2月15日生まれ 富山県出身

日本救急医学会 救急科専門医

藤田医科大学医学部卒業後、相澤病院救急科、青梅市立総合病院救命救急センター医長、遠山脳神経外科副院長などを経て、

2018年11月、24時間年中無休の「ふじみの救急クリニック」を開業。翌年、自ら救急車を作り民間救急隊を設立、日本初の民間救急隊併設型の救急クリニックとなる。

2020年2月、独自にPCR検査体制を整えるなど、いち早く新型コロナウイルス感染症対策に従事する。

2020年12月、新型コロナウイルス重点医療機関に認定され、クリニックから病院へと拡大。

2024年2月、「むさしの病院」開院。

メディアにも多数出演し、最前線で闘う現場の声を発信している。

経歴

藤田医科大学 医学部 卒業
ペンシルバニア大学 医学部 留学
アイオワ大学 医学部 留学
青梅市立総合病院 救命救急センター 医長
遠山脳神経外科 副院長

資格

日本救急医学会 救急科専門医
日本脳神経外科学会 会員
ICLS(二次救命処置) コースディレクター
JATEC(外傷初期診療) プロバイダー
JPTEC(病院前外傷初期診療) プロバイダー
ISLS(脳卒中初期診療) プロバイダー
PALS(小児二次救命処置) プロバイダー
日本 DMAT(災害派遣医療チーム) 隊員
陸上自衛隊 予備自衛官 医官(三佐)
病院前救護統括体制認定機構 民間メディカルコントロール医師

受賞

千里メディカルラリー(救命救急の全国大会) 7位

■メディア出演

T V NHK「首都圏ネットワーク」「逆転人生」「ニュース シブ5時」
NTV「DayDay.」「news zero」「news every.」「ZIP!」「シューイチ」
NTV「24時間テレビ43」 YTV「情報ライブミヤネ屋」
E X「ビートたけしのTVタックル」「羽鳥慎一モーニングショー」
E X「大下容子ワイド!スクランブル」「スーパーJチャンネル」
E X「サタデーステーション」「サンデーステーション」
E X「報道ステーション」「グッド!モーニング」「サンデーLIVE!!」
TBS「上田晋也のニュースな国民会議」「グッとラック!」
TBS「あさチャン!」「Nスタ」「サンデーモーニング」「news23」
TBS「新・情報7days ニュースキャスター」「まるっと!サタデー」
TBS「サンデージャポン」「ひるおび」
C X「直撃 LIVE グッディ!」「Mr.サンデー」「めざましテレビ」
C X「めざまし8」「バイキング MORE」「LiveNews it!」
T X「ワールドビジネスサテライト」
BS 日テレ「深層 NEWS」 BS-TBS「報道1930」 テレ玉「NEWS545」
C M ニプロ「コロナと闘う全ての人に、感謝とエールを」
ラジオ NHK「武内陶子のごゴラジ!」 J-WAVE「STEP ONE」
新聞 朝日新聞 東京新聞 毎日新聞 スポーツニッポン 日経新聞
雑誌 「散歩の達人」「MONOQLO」「集中」「週刊文春」

3.11 東日本大震災では東京消防庁の指令室で救急隊を指導。2018年11月、救急科と脳神経外科専門医が常駐する24時間年中無休の「ふじみの救急クリニック」(埼玉県三芳町)を開業。2019年5月、自ら救急車を作り民間救急隊を設立、日本初の民間救急隊併設型の救急クリニックとなる。

新型コロナウイルス感染症への迅速な対応、精力的な活動が注目され、TV など各メディアに多数出演。

<新型コロナウイルス感染症において>

2020年2月より、独自にPCR検査を24時間体制で開始。3月に帰国者・接触者外来に指定、発熱外来PCRセンターを委託され、駐車場にプレハブ施設を設置し、自作シールドによる検体採取など、独自の判断で積極的に検査を行う。検査を仲介する保健所のパンク状態により診療所を案内してもらえなかった患者や、診療所でも診察を断られた発熱患者など、24時間体制で広く受け入れる。

2020年4月には診療所内10床とプレハブ内9床で入院を可能にする。5月にはプレハブ28個からなる発熱外来PCRセンターと入院病棟19床を稼働。11月よりドライブスルーPCR検査開始。12月よりクリニックから病院となり、病床数を計38床に拡充、ECMO(体外式膜型人工肺)を導入。

1日のPCR検査数は第1~4波で約200~600人、第5波ピーク時(2021年8月)は約1000人、第6波~第7波ピーク時(2022年7月)は約1300人に上る。



医療法人社団 晃悠会
ふじみの救急クリニック



日本国民の誇り 本物の医療現場



「保健所経由の検査限界」

診療所 24時間PCRで奮闘

埼玉・三芳

発熱が続いても新型コロナウイルス感染の有無を正確にPCR検査をなかなか受けられない人が増える中、埼玉県三芳町の診療所「ふじみの救急クリニック」は、二十四時間態勢で検査受け付けている。処置は一日十時ほどでまた余力はあるが、検査を仲介する保健所がパンク状態。副院長(左)は「できる限り患者を把握する」と最大限に力をつけている。この検査の重要性を訴える。(浅野有紀)

「医療を守ろう」

PCR検査を始める前は、PCR検査は保健所が中心で、患者は保健所から紹介されるという流れだった。しかし、保健所がパンク状態になり、患者が紹介されずにいる人が増え、検査を受けられない人が増えた。そこで、診療所がPCR検査を受け付けるようになった。現在は、診療所がPCR検査を受け付けることで、患者が紹介されずにいる人が減った。また、診療所がPCR検査を受け付けることで、患者が紹介されずにいる人が減った。また、診療所がPCR検査を受け付けることで、患者が紹介されずにいる人が減った。

「3月に「帰国者・接触者外来」に指定

LINE

「医療を守ろう」
のご意見、情報は、
100 8505 東京新聞
会部へ。社会部のメ
ル=shakai@tokyo
no.co.jp フォクス
03 (3595) 8919一でも
受け付けます。